



山川 紀明
Noriaki Yamakawa

トップファームグループ
総務課長

初心忘るべからず！

トップファームグループは農場HACCPやJGAPを取得しており、労働安全にも力を入れています。今年から担当となった山川さんに、内容を紹介頂きました。

Q. 会社の労働安全について工夫している点をお教えてください

A. 朝礼では、本日の仕事内容とその対応者を決めています。その際、対応者の熟練度や天候、仕事量なども考慮し、労働安全の意識を再認識して欲しいときに注意喚起しています。それはつまり、**頭の中に「安全」が消えそうな時**です。

Q. 朝礼のスタイルについてもう少しお教えてください

A. 朝礼の司会者は日直（当番制）が司会を務め、その中で「今日のひとこと（テーマ自由）」を発言します。社会人として人前で話すことに慣れてもらうため、数年前に始めた取り組みです。日直からは車両事故や作業中の事故防止に関する発言が多く、日頃から**作業安全に務める雰囲気づくり**が社員全員によって行われています。

Q. 安全に取り組んで、良かったと思う点をお教えてください

A. 私のヒヤリハット体験や、他社員からの安全啓蒙の発言によって、危険エリア・危険事項を共有することができ、そのことが事故防止に繋がっていると実感できることです。また、会議や学習会等で危険箇所を知ったことで個々の危険予知アンテナを持つ

ことができ、安全に日常業務を遂行していると思います。

終業時にケガ・事故の報告がなかった日は、従業員全員の労働安全取り組みの結果であり良かったと思える瞬間です。

Q. 安全を整える際、気を付けていることは何ですか

A. 基本的に農場内での作業ルールを守るようにアナウンスしています。何らかの注意喚起する際、皆が状況をイメージできるように、日常業務のワンシーンを例にする、または自分が体験したことを話すなど、伝わる言葉になるよう心がけています。特に大事なことは繰り返し発言するなど、皆の頭に残るように意識しています。**安全第一で作業にあたること、何かあった場合、最後は必ず自分の体を守ることを最優先するように皆で確認**あっています。

Q. 事故防止対策を講じる時に難しいと感じることは何ですか

A. 事故防止対策について、朝礼で社員に伝えることはできません。難しいと感じるのは、様々な状況の中、現場でその対策を実施してもらうことです。特に難しいのは、牛と接触する作業かと思います。相手が動物なので、予測不能な動きをすることが想定されます。そのような事態に遭遇した際、社員の経験の差により、対処できない場合があり、怪我をするリスクがあります。



1



2

1. 肥育牛舎。床に無駄なものを一切置かず、また通路掃除も定期的実施。

2. 作業者同士で支度やミーティングを行う部屋の机には、「常に考える！」の紙が置いてある。社長が考案した。



経営概要

労働力 70名
 経営形態 肉用牛（素牛・肥育）および酪農
 家畜飼養頭数（令和3年1月現在）
 ・素牛 5,005頭、肥育 6,643頭
 ・乳牛 819頭、繁殖 509頭
 年間出荷頭数
 ・素牛 7,343頭、肥育 4,393頭
 農場HACCP認証取得（平成24年）
 JGAP家畜・畜産物認証取得（平成29年）



Q. 安全を更に高めるために必要なことは

A. トップファームでは、牧場長を中心に管理職の社員が当日の作業の段取りを行い、朝礼時に誰が何を行うのか確認されます。天候、時間帯、心理状況などの様々な状況や場内環境で、事故発生のリスクは変化すると思います。また、これまでの経験から、イレギュラー発生時や不慣れな作業をした場合、事故のリスクが高まると考えています。担当者がまだ不慣れな場合、何に注意すべきかを朝礼時や現場で具体的な指示が発信されます。農場HACCPやJGAPでは、作業工程や労働安全について、マニュアルを作成して、社員はその内容を確認し、ルールや手順を順守しています。また、新人社員は必ず先輩社員と一緒に作業し、仕事を覚えていきます。安全に作業ができるようになるまで、単独作業はさせないようにしています。

そのような取り組みも行いつつ、安全性をさらに高めるためには、①労働力（必要な人数および時間）の確保、②安全作業のためのルールづくりとその順守、③安全確保のための設備投資、施設の改修、身を守る道具の準備、などが必要と考えます。

Q. 労働安全に興味がある畜産農業者に、一言メッセージをお願いします

A. ないことを願いますが、今日もどこかの農場で労働事故発生の可能性があります。大切な家族や社員が事故に遭い、痛くつらい思いをしてからでは取り返しがつきません。労働安全の取り組みを強化し、日頃からケガ・事故の発生のリスクを下げる取り組みは重要で、それは永遠のテーマだと思います。事故が1件でも減るよう、共に労働安全に取り組んでいきましょう。



3



4

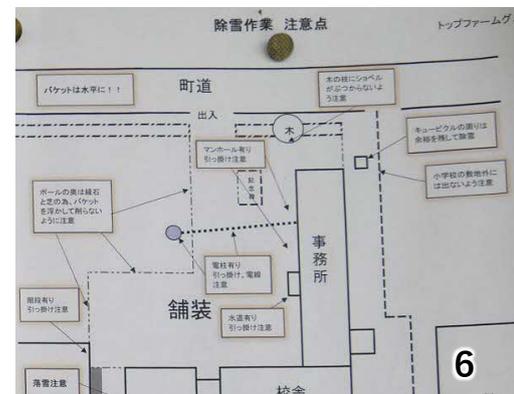
3. ヘルメットとヘッドライト。夜回り担当者が必ず身に着けるもの。ヘルメットが置いてある作業台には、前ページの「常に考える！」を含め様々な情報やメッセージが置いてある。大切にしたい言葉の散りばめ方はとても参考になる。

4. 長靴の洗い場。ふと目の前を見ると、時期ごとに気を付けてほしい安全情報が掲示されている。

5. 作業者の休憩所の掲示板。作業の注意事項、畜産事故の切り抜きなど、安全に関する掲示が多くされていた。



6. 除雪作業の注意点。除雪ひとつをとっても本当に沢山の情報が必要なことを知る。



6



7. 肥育牛舎。ペン毎に牛の情報があるとともに『注意牛』も大きく示している。

以前は『危険牛』という表記だったが、社長が「危険牛って言い方は、牛がかわいそうだよな」と言い、変更した。言葉の使い方ひとつにも、愛情が感じられる。

8. 搾乳牛舎。クロスアレーに可動式の仕切りが設置されており、追い込み作業が一方通行でできる。効率的な作業は安全にも繋がる。



9. 使用する機械にはすべて、次回点検日やオイルの交換時期が記入されており、安心して機械作業ができる。



10. 搾乳牛舎。牛が快適に寝起きして過ごすことができる状態に整えることは、牛も人も安全に日々を送るすべての基礎。



11. 牛を移動する際に利用する枠。トラクタで移動する。牛を安全に移動する道具（枠や柵など）はたくさんあった方が良い。